



## 曾祖父との思い出

伊勢崎市立あずま中学校 1年

### 前鬼 理人

僕は、お米を毎日食べています。僕の家はお店で売っているお米ではなく、祖父と祖母が作ったお米を食べています。祖父たちの作ったお米は美味しく、僕は大好きです。

祖父と祖母は栃木県那須町でお米を作っています。僕が小さい頃は曾祖父と曾祖母がお米を作っていました。僕は、一年に何度か那須町に遊びに行きます。その時に、曾祖父の田んぼを見せてもらったことがあります。曾祖父の田んぼは、山の中にあります。いくつもの田んぼを持っていて、「ここと、あそこも家の田んぼだよ」と教えてもらいましたが、とても広くて遠くまで見渡すことが出来ませんでした。それなので、遊びに行くたびに聞くのですが、やはり覚えることが出来ませんでした。僕は、たくさんある田んぼの中で、自分の家の田んぼがどこにあるのか分かる曾祖父はすごいと思っていました。

僕は小学校の時、学校の授業で田植えや稲刈りの体験をしました。田植えの体験では、田んぼに入り苗を植えました。苗をどこまで土に深く植えた方がいいのか分からず、難しかったです。そして、足が泥にはまり、抜け出せなくなってしまいました。稲刈りでは、鎌を持って稲を刈りました。上手く刈ることが出来ませんでした。腰が痛くなったのを覚えています。その時僕は、曾祖父と曾祖母の事を思い出しました。曾祖父と曾祖母はとても苦労してお米を作っているのだと思いました。曾祖母の腰が曲がっているのは、若い時から苗を植えたり、稲を刈ったりしていたからなのです。現在では田植え機やコンバインなどの機械を使って作業をしますが、それでも広い田んぼにお米を作るのは大変な仕事なのだと思います。

僕は、曾祖父のお米作りの手伝いをしたことはありません。いつも、出来上がった新米を秋にもらいます。お米が出来上がるまでには、たくさんの作業が必要になります。僕が体験した田植えや稲刈りだけでなく、水の管理、雑草の駆除、肥料の散布。毎日休む暇もなく田んぼの様子を見に行かなければなりません。曾祖父も、雨の日も風の日も田んぼに出かけていたと言っていました。僕は、曾祖父達の苦労を、初めて知ることができました。そして、今度遊びに行った時には、手伝いをしたいと思いました。けれども、一度も手伝いをすることが出来ないまま、曾祖父は二年前に亡くなってしまいました。

曾祖父が亡くなった後、曾祖母も高齢のため、今は祖父と祖母が引き継いでお米を作っています。祖父達の作ったお米は、曾祖父の作ったお米と同じ味がします。同じように苦労をして作ってくれているのだと思います。僕は、そのお米を毎日食べます。お弁当にも持って行きます。時には、母がオムライスにしたり、チャーハンにしたり、色々な料理を作ってくれます。お米を使った料理は大好きです。けれども、一番美味しいのは炊きたての白いご飯です。白いご飯は、どんなおかずにも合います。

僕は、曾祖父と曾祖母と祖父と祖母の作ったお米を毎日食べて成長しました。僕の体はお米で出来ていると言えると思います。以前父が言ったことがあります。「お父さんもいつかお米を作るよ」それを聞いた時、いつか僕も大きくなったらお米を作るのだと思いました。お米にはたくさんの種類があると聞きました。僕がお米を作るようになったら、色々な研究をして、たくさんの種類のお米を作りたいと思います。美味しいお米を作って、家族に食べてもらいたいです。そのためにも、曾祖父の時で出来なかったお米作りの手伝いに、祖父と祖母に会いに行きたいと思います。